

~2023年・夏特講、群馬県榛名で開催(8月19日~26日)

みんなと共に暮らし、研鑽した一週間は、貴重な体験

今年の夏の特講は、群馬県の榛名実顕地を会場に開催されました。榛名実顕地では初めての開催。事前準備から開催期間中、最終日の交流会まで、関東や三重県からの実顕地メンバーと関東各地の地域会員、みんなで知恵と力を寄せあって創った特講でした。

一週間、寝食を共にして考え、研鑽した受講者は10代から70代の17人、みんな笑顔いっぱいに出発しました。その特講生の何人から感想が届きましたので紹介します。



三重県から参加のR・Oさん（女性18歳）

特講に参加してみて今まで思うのは「行って良かった」です。私は今まで、思っても口に出さなかったり、思っているそのままを言うことがなかなか出来なかったのですが、特講での研鑽やみんなと一緒に生活していく中で、他の方が色々なことを話しているのを聞いたり、自分が勇気を出して発言したりしていく内に「素直でいいんだ、そのままでいいんだ」と思えるようになりました。

そのままでいいと気づけたり、特講でやった考え方や経験が自分の中にある上で、これからを生きていくと、楽になりそうだし面白くなりそうだと感じるので、参加して良かったなと思います。

なにより、みんな違う個性の豊かな方たちと出会えて、互いに影響を受けながら1週間



一緒に過ごせて、本当に良かったと思っています。

特講という1週間が、自分の人生の中に入って良かったと思いました。

埼玉県から参加のH・Oさん（女性20歳）

特講に参加して、スマホがない、時計がなく時間も分からない中で初めて生活してみて、始めは不安だったけれど、意外とやってみるとすぐ慣れ、ほとんど気にしないで生活できました。スマホがない分、人と話す時間がたくさん作れ、色々な人と話すことが出来ました。参加している人の年齢や職業も様々で、いつもは聞かないような話を聞けたり、勉強になったりして面白かったです。

研鑽会では、自分なりの答えはあるけれど、さらに質問されると、何を考えたらいいか分からなくなるときもありました。いつもなら考えないようなことを、じっくりと時間をとて考えられたのが良かったです。

特講に行く前に色々な人から、どんどん話した方がいいと聞いていたので、話すようにしたら、考えが整理しやすく他の人の話を入りやすかったのでそうして良かったです。

考えたテーマは、第一回の特講からほとんど同じなのだと知り、驚きました。参加したことがある人にも、どんなことを話したり、考えたりしたのか聞きたいと思いました。なぜ腹が立つかという内容では、今までの経験や自分の価値観、常識、文化などを一旦おいて、主觀を入れずに考えるということをすると、楽に考えられる気がしました。これからも、人と関わるときなどで役に立つと思うので、腹が立つという場面があったら、このことを思い出したいと思いました。

次回「特講」は年末年始開催の予定
12月29日(金)～2024年1月5日(金)

三重県地区ヤマギシズム実顕地にて

- 問合せ：ヤマギシズム東京案内所
email tokyo@koufukukai.com
phone 042-851-9180
- 申込み：fax 042-851-9181
web →



広島県から参加の N・D さん（女性 28 歳）

この度、前職でお世話になった方からの紹介で特講に参加しました。特講の話を聞いたのは、前職を退職してすぐのタイミングでした。そのころ私は仕事や人間関係に悩み、自分に自信を失っていました。そんな時に自分を見つめる一生に一度の機会があると教えていただき、飛びつくように参加を決意しました。

実際に参加して、様々な研鑽テーマに沿って色々な意見を出し合い、「本当はどうか」を研鑽していくことが新鮮でした。今まで私は、物事のほんの一部分しか見えてなかったのではないか、はたまた当たり前だと認識していた事が本当だった



26 日・最終日の特講交流会は、関東の実顕地メンバー、地域会員、迎えの人など、受講生を囲んで総勢約 50 人で和気あいあいと楽しく開催されました

のか等、凝り固った観念が碎かれるような感覚になりました。

また、自分には強みがない、仕事ができない等と自分自身のことも決めつけていたことにも気づきました。特講を終えた今なら、負のループに陥っていた以前の自分に「なぜそう思うのか」「本当にそうか」と問うことができます。これは私にとって大きな一歩です。新たな自分にも出逢えた気がします。「ゴールインスタート」という言葉は、とても前向きで背中を押してくれる言葉に聞こえました。本当の自分を見つめながら、悩み一色から幸福一色へと変えていけるように、これからも研鑽し続けたいと思います。

熊本県から参加の H・M さん（男性 33 歳）

特講を受ける当初の目的は、紹介してくれた姉が、特講で出た食事がとても美味しかったと言っていたので、美味しいものを食べたいと思い、受けようと思いました。実際に出た食事は、どれも美味しかったです。

特講の内容は、特に聞いてはいなかったので、どんな内容かとわくわくしたり、不安もありました。

特講を受けて最初に思ったことは、出されたテーマで話し合いをしても、その答えは無いと言われ、困惑したことです。だいたいは答えがある生活をしていたので、答えが無い話し合いはとても困惑したのと同時に、新鮮な感じがしたと思

—榛名での特講準備隊やってみて—

私も「特講を創る」一役やらせてもらいました 神奈川県 百武敦子

榛名特講準備隊に絡めて、榛名湖の相馬山に登り、準備隊のみんなが集まる前日から榛名実顕地に入りました。荷

物を置くのに案内された建物に入ると、賑やかな子供の声。生活感たっぷりの流し台を曲がり、恐竜のオモチャを踏まないよう避けながらついて行った部屋もオモチャに落書き…、ここが今晚の寝床で、ナント…明日から掃除する特講会場！ ここが特講会場—マジか？！

美味しいスパゲティーの夕食を食べた後、和子さんと明日か



集まった準備隊の昼食は野外で BBQ、とっても美味しかったです

ら掃除をする場所を見て回り…押入れを掃除して、布団を入れる。そして、とにかく窓を綺麗にして欲しい！ と案内された廊下の突き当りの窓を見て…またマジか！ 汚れが塊になってこびり付いていた。

次の日、朝から賑やかに特講に使うために 2 家族の引っ越し始まり、私達も掃除開始。

加藤夫婦が会場の網戸を外と内で息を合わせて（微妙にズレていたが…）拭いていたので、必然的に私が一人で、あの廊下の窓に取り組む事となった。

まずは蜘蛛の巣払い…最初から簡単にいかない…糸が太く粘っこくて…時間をかけてどうにか払い、次はサッシを拭くが、これも手強く…けいこさんにヤスリが欲しいと言うと、色々用意してくれて、どうにかこうにかまあまあ綺麗になってきた。

ここで特講をやるんだなぁー、自分が特講を受けた大安の窓はピカピカだったなぁーと思いつつ、今度は私が準備するんだなぁーと、綺麗にしたい思いが湧いて手が動いた。

皆が来る頃には、男の子 3 人の賑やか家族の引っ越しも見事に終わり、生活感たっぷりの家が空き家になった。

午後から総勢 13 人で出発研、メンバーには一級建築士、住宅建設社長、大工の棟梁、電気屋さんと強力メンバーが、壊れた箇所を修理し落書きもペンキで塗っていき、皆の総力を瞬く間に綺麗になっていった。

私は恭子ちゃんが蜘蛛の巣を払ってくれた後の、窓拭きをして、綺麗になった窓に緑の木々が映ってるのを見て、なんだかふと、私も特講に参加してるって思えた。

山の緑に囲まれた榛名の特講。素敵な出発が出来ますように！

ました。

日本中から色々な人が集まって、答えの無い話し合いをするからか、自分では考えつかないような意見がたくさん出てきて、そういう考え方もあるのかと驚いたり、感心したりしました。

特講では部屋の中で話し合いをするか、食事やお風呂に入ることだけで、運動はあまりやらないからお腹は減るのだろうかと思っていましたが、食事が美味しいのと、考えることにエネルギーを使っているからか、意外とお腹が減るのだと思いました。

参加していた人と話をし、色々な人と知り合い、仲良くなることができたりして、この特講を受けて良かったと思いました。

静岡県から参加の J・F さん（女性 48 歳）

特講で学んだことは言葉で表すと、例えば『愛とはこういうものではないかと感じました』、『いろんな考え方を自分で半ば無理やり出した経験を通して、色々な見方ができる自分がいるんだな、ということに気づきました』とか、文章で書くと非常に単純でサラッと読み飛ばしてしまう程度のことです。

後付けで『良い風に』書けることもあります。他人に説明しても、言葉ではわかつても実感でわかつてもらうことは不可能でしょう。

これは自分だけの体験であり、単純なワードの中にもぎゅっと凝縮された自分の体感があったということを、自分が大事に持っていたいと思いました。頭で考えた言葉は頼りなく、どんどん変化していくことがあります。『愛ってこうこうこういうもので、こういうものだと思った』という言葉は、日数が経過するにつれ記憶が薄れていき、いろんな外からの情報を混じってどんどん違うものになっていってしまうでしょう。

ですが、あの時心が震えた体感、涙した時胸にこみあげてくる温度、温かい涙の温度、みんなが涙をこらえた部屋のシンとした雰囲気、畳に反射した揺れる木漏れ日の美しさ、そういった五感、六感で体感したものは体がちゃんと覚えています。その体感をたまに思い出しながら、その感覚を大事にしながら、生活を送りたいと考えています。



神奈川県から参加の M・O さん（女性 51 歳）

信頼する小林恭子さんからの紹介で特講を知りました。どんな形であれ、自分の成長に繋がるなら参加してみようと思いました。

特講を終えると、自分の気持ちに素直になった気がしました。いつもなら、少しストレスを感じてもやってしまうことに「NO」と伝えるようになっていたことや、私は夫に対して心で感謝はしていても、「ありがとう」の言葉を伝えられなくなっていたのですが、それをしようという気持ちに変わっていました。

斎藤一人さんという方が、天国の言葉として「愛してます ついてる 嬉しい 楽しい 感謝します ありがとうございます」と記されていたのを読んだことがあります。私は白黒はっきりした性格のためか、本気で腹が立つと「許す」

ということがなかなかできずにいました。特講の後、この天国の言葉を見て、「許す」ということがスッと自分に入ってくる気がしました。許すことができて「ありがとう」を伝えることができたのかなと思いました。何故、心に変化が生まれたのかはわかりません。

友人や科学者から、これからは波動を高めておくことが大切だと聞きました。日本語の「ありがとう」の響きは、とても波動が良いそうです。私に大切な『許し』を心に留め、関わる方々に感謝していきたいと思います。「ありがとう」の言葉で、自分にも周りにも幸せの波動を送っていきたいですね！！

最後に、一緒に特講に参加できた仲間は人生の宝物です。みんな、一緒に幸せになりましたね☆

東京都から参加の M・T さん（女性 62 歳）

私の職業は、目と脳のケアセラピストです。スマホもテレビも時計も PC もない 7 泊 8 日の夏休みへ行ってまいりました。

信頼している方から何度も勧められ、特講は、一生に一度しか受けられないことも知り、特に詳しい説明もありませんでしたが、今の不自由な自分から、自然の中で、沢山の執着している物事を手放し、解放されたいと思い参加する事にしました。

あえて事前に Google で検索せずに、その場の一瞬、一瞬をどう感じるのかに身を任せてみようと思いました。

一週間、自分に向き合ふことで、身体も心もリセットされて自由で、軽く感じます。一生忘れられない宝物の夏休みを送らせて頂きました。感謝を申し上げます。

2人の友人に「特講」をプレゼント

東京都 小林恭子

真貴ちゃんは、Zoom の「子育て講座」や岡部実顕地の「親子のつどい」に参加して、村を気に入り、自然と「特講ってなーに？」と聞かれて「行ってみたい！」になりました。



真理ちゃんは仕事仲間で、彼女の良さがもっと發揮できたらいいのにと思ってました。ある日、お茶しながらいきなり、「私の人生は 36 歳の時変わったの。一生に一度しか行けない合宿に行ったの。5 万円だけど 100 万円の価値があった」と話したら、「行きたい！」と言ったのです。デンと輝ける人なので楽しみでした。帰ってきて「丹田に力が入った、受け止めた」といいながら、周りの友人に「顔が変わった！ 声が変わった！」と、力強くなった真理ちゃんは頼もしく微笑ましい限りです。

2 人を地域の仲間で送り出しをして、受け入れの Zoom では、大笑いすることもあり、楽しく考えながら過ごせたのだなと思いました。

毎週日曜日の幸福研の仲間が増え、また 2 人共に大切な大切な友人ですので、一生お付き合いしていこうと思っています。

『夏の子ども楽園村、8月に豊里実顕地で開催

コロナ禍で開催ができず「夏の子ども楽園村」は4年ぶり。待ちに待った楽園村の開催に、若いスタッフたちは「自分たちが楽園村で育ってきて、楽園村が大好きで大好きで、今度は子どもたちと一緒に楽しんで、楽園村の楽しさを伝えたい」と大活躍。8月2日～5日、3泊4日のこの夏の楽園村はどんな楽園村だったのでしょうか。

お母さんスタッフに入った2人の感想を紹介します。



初参加の子どもたちもすぐに楽しさいっぱい

三重県松阪市 大西美紀

夏の楽園村は4年ぶりの開催とあって、参加者の8割は初参加。しかも1年生から3年生が参加者の半分。さて、どんな楽園村になるのかな？

初日の開村式。楽園村ソングを知っているのはほんの一部。スタッフのお兄ちゃん、お姉ちゃんの声だけが響いて、楽園村ソングを初めて聞く子たちはぽかーん。これが、1日経つごとに、大きな歌声になり、振り付けもついてどんどん一つになっていく。最終日はもう大合唱！ わー、これこそ楽園村だよね～！

最初は緊張して硬い表情をしてた子も、少しずつゆるんでいく。少しずつその子らしさが出てくる。この変化を見るのが、私、好きなんだな～。

朝から晩までたっぷり遊び、いっぱいご飯を食べてみんなで寝る。そんな時間が子どもたちをどんどん解放していく感じ。

夜はお母さんに会いたくなって泣きたくなる時もあっても、最終日は「次はいつあるの？」「冬休みもあるの？」「次も絶対きたい！」とみんな目をキラキラさせて言ってくる。「次もスタッフくる？」と聞かれて、一瞬止まる。スタッフねえ。しんどいんだよ、中々（笑）。でもまた機会があったら、きっと来ちゃうんだろうなあ。それが楽園村、ですね。

子ども達の笑顔に会える次の楽園村が楽しみ

愛知県豊橋市 小泉知子

夏、空に入道雲を見ると、初めて楽園村スタッフで幼児のお母さんをした時のことを思い出します。子ども達とのんびり畠を散歩した田園風景が脳裏に浮かび、懐かしくて、その場所に戻りたくなります。

コロナ禍があけて4年ぶりの楽園村スタッフのチャンスが。しかし豊里は経験がない、仕事は休めるか、自分の体力は、自分で良いのか、いろいろと頭で考え、妄想しましたが、今回は、自分のやりたいを大切にして、参加をお願いしました。

一緒にスタッフに入った六ツ川の篠原さんが「無報酬、交通費自腹でやってきました」と言ってましたが、会社では「海外旅行に行くの？」と聞かれるほどの連休申請！ 農業体験のボランティアスタッフに行くことを伝えると、わざわざ休み使ってと、驚かれましたが、海外旅行よりも？ 素敵な思い出や出会いがあり、行った時よりも、元気にリフレッシュして帰ってきました。

慣れない豊里での楽園村で、緊張と人見知りから、だんだんと動けるようになり、本当に楽しかったです。子ども達を見てるだけで、なんだか、心が洗われる感じで。子どもの持つ力や優しさ、頑張り所を見ていると、本当に楽しかったし、楽園村スタッフは、クセになります。幸せな3泊4日でした。

楽園村スタッフは、「誰からも評価されない、だからこそ、思いっきりできる、子どもは一年に何回か、親の重力から解き放たれる時が必要でそれで育つものがある」と、またまた篠原さんのお言葉がよぎり、スタッフするなかで、評価を気にしているのは自分だなあと、会社や家、地域の重力から一年に何回か解き放たれるのは、心がフラットになる気がして、必要なことかを感じました。

自分の体力とか、村の事情を別として、もう少し日にちがあったら、自分も子どもも一皮剥けるチャンスは多いのかなあと思いました。

行く時はなんだか体が重かったけど、帰りは無茶軽くなりました。現実的には、思いっきり食べて、動いたけど、体重は減りませんでしたが。また、あの暑い夏の風景に戻れる日を楽しみに、キラキラしたあの子ども達の笑顔に会える次の開催を待ちたいです。



岡部実顕地で 『親子のつどい』を7月に開催

研鑽の醍醐味を味わいながら
参加者みんなで創る

東京都 加藤ゆりか

この夏、コロナ禍で自粛していた『楽園村』が4年ぶりに豊里実顕地で開催となり、嬉しい反面「関東はどうする?」と3月頃から若者や大人の有志で考え出しました。

ずっと「あるもの」と勘違いしていた『楽園村』。人が寄る事が出来なくなって改めてその価値を再認識。やっぱり親も子も、寄って、触れ合い、育ち合う場を創りたい!今、関東ならどんな場を創っていくか?創りたいか?と、Zoomを使い研鑽を重ね、7/15~17、岡部実顕地で“あつまる・つながる・ひろがる”をテーマに『親子のつどい』を開催する運びとなりました。

2歳~74歳の、幼児5人、小学生8人、中高校生4人、若者12人、大人17人の計46人の大家族です。遠慮気兼ねなく、何でも出し合い、聴き合いながら2泊3日の暮らしを創ろうと、更にZoomでの準備研を重ねました。メニューから、スケジュール、誰かが決めてしまうのは簡単だけど、どうしたい?と誰でも入れる準備研で研鑽し、紆余曲折しながらも、みんなを巻き込んで研鑽するのが今回の『親子のつどい』の醍醐味でした。これまでにとらわれず、どうしたいか?だけで研鑽を重ね、暑い暑い岡部実顕地での当日を迎える。「何があっても研鑽でやろうね」これ一本でやった合宿でした。

思ったことを出し合い一致点を見いだして

三重県 鎌塚剛亘



研鑽で進めていくというのをベースに、つどいのテーマや内容などを2ヶ月前から話し合った。自分がその場で思ったことを出していいと思った環境だったので(聞いて貰えると思ったから)、自分の中で考えが溜まってきて、気持ちを軽くやることが出来た。



印象に残っているのは、若者達が企画したキャンプファイヤーについて、火を炊くことや熱中症の心配があったが、大人たちから「やってみな」と言ってもらった後の話し合い。若者15人くらいみんなが寄って、「暑いからやりたくない」「子ども達と楽しめるならほかのことでもいい」など思ってることを出し合えていたと思う。やらない流れになって来た時に「やらないなら切り替えて、次のことを話し合おう」と言った子がいて、結局は室内で工夫したハレハレ集会をすることになった。みんな思ってることを出し合って一致した意見になったんじゃないのか、そもそも話し合いができるってことが楽しかったってことが、合宿の中で一番満ち足りた気持ちになった。

思ったことを出せるとかってことを、相手を測ってしようとしていたけど、それも自分が決めていることだと。軽く出してみるってところで、これからもやっていきたいし、そんな気持ちでやっている仲間が増えていくといいなと思う。

内部川実顕地「たまごとり体験」

数年振りに内部川で「たまごとり体験」を開催しました。開催を決めたのが急だったこともあり、真夏の暑い盛りでの体験となりましたが、20名近くが参加してのぎやかな時間となりました。(8/12・石角聰)

むら-net.
から



春日山・夏企画「2泊3日の研鑽会」に参加して

新たなスタートとなる機会になった

東京都 中原正大

8月18日から21日の2泊3日、春日山実顕地での研鑽会に参加した。

テーマは「僕達はどう生きるか」で、昨年末で会社を退職したこの機会に今後の生き方を考えたいと思い参加した。対象が「40代から70代」と言うことで、近い年代で研鑽できるのではと思えた。集まったのは、女性9名、男性5名の計14名であった。

18日夕には、村の夏祭りが用意され、参加者全員が浴衣を着て食事や盆踊りを楽しめていた。また、翌19日には各職場の村参観もさせていただいた。

研鑽会の内容は、特に準備されておらず、参加者で作っていった。テーマに関連しては、研鑽会を通して「自分の心の深い部分で何を欲しているのだろうか」と問い合わせ続ける必要性を感じた。

生活では、春日山実顕地の自然の中で、五感が喜ぶ自分がいた。村にとっても、会員にとっても、コロナ後で今回の様に直接交流できる機会は初めてであり、それぞれにとって新たなスタートとなる機会となったのではないだろうか。

久々に春日山の雰囲気に触れて大満足

福岡県 山崎みゆき

「僕達（私達）はどう生きるのか」というテーマが決まっているだけで、参加した人達でこの2泊3日をどのように過ごすかを考えるよう、最初の研鑽会で村の人から言われ、どうやっていくのかな？と少々不安になりながらも、4年ぶりに春日山実顕地に来られたことによても満足していました。

しかし、何も用意されていなかったわけでは無く、17日に予定していた村の夏祭りを18日の合宿研に合わせて変更してくれたそうです。私達のために、浴衣がサイズ、柄ともにたくさん準備され、好みの物を選んだり、「これ似合うんじゃない？」と言われた浴衣を着たり。着付けもとっても丁寧にしでもらい、久しぶりに浴衣を着られることにとても嬉しくな



りました。着付けてくれた村の方はしじゅうニコニコと、帯を締める時も「きつくない？」と声をかけてくれ、出会った村の人達は「浴衣を着てくれてありがとう」と言ってくれました。美味しい食事に盆踊りなど、ほんの数時間で、幸せいっぱいになりました。

研鑽会で感じた事は、酪農、養豚、野菜や果物を育てているのは「仲良しするためにやっている」と村の人が話してくれた時、「あっ、なんだ」、そして「そうよね」と自然に納得して、今まで「仲良し」という言葉に少し抵抗感がありました。今回も合宿研で素直に「仲良しの生き方がしたい」と思いました。「仲良し」ってどういうことなのか？もっと調べたくなり、引き続き、研鑽、研鑽ですね。

2泊3日、とても有意義で楽しい時間でした。一緒に参加した皆さん、受け入れてくれた村の方々、ありがとうございます。

●次回の春日山企画「2泊3日の研鑽会」

- ・日時：11月3日14時から5日12時まで
- ・場所：春日山実顕地
- ・テーマ「僕達はどう生きるか」
- ・参加対象：40代から70代の男女（子預かりなし）
- ・参加費：5,550円
- ・宿泊：春日山交流館
- ・参加申込み先は、春日山村人窓口
fax: 0595-45-4870
email: kasugayama@yamagishi.or.jp



むら-net. から

夕張実顕地 「ジャガイモ収穫」



今年のじゃがいも収穫で例年と違う点は、収穫機械を最新の物に更新した事で、能率が1.5倍に、人手は30%ぐらい減らす事ができました。今年、他の実顕地から集まつもらつたメンバーは、60代、70代が主力で、しかも初日から、気温35℃を超える暑さの中、熱中症と闘いながら、工夫しながら、進めています。（9/6・夕張実顕地 橋口善一郎）



「とうもろこし収穫体験in岡部実顕地」に参加して
千葉県 小林伸子

兼ねてより子どもや孫達と行きたかった「とうもろこし収穫」。若者研で種蒔きをしたと聞いた時から、事有る毎に“とうもろこし 行こうね～”と、声を掛け続けた甲斐があり、



今回(6/24)、子ども6人(含む嫁ちゃん)、孫5人、私の12人で参加しました。

三女の“とうもろこし収穫を楽しむ心は用意出来ますか～？”の掛け声と共に出発。道中のワチャワチャは割愛。

村に着いたら、早速ひよこホールで駆け回るおチビさん達。初めましてのお友達といきなり遊び始める。うん。

畑で出迎えてくれた村のお父さんに、もぎ方を伝えて貰い…いざ！たった3ヶ月余りで、こんなにもぱっくりと大きく育つのかと感心することしきり。ぐいっと握り、くるっと回すとボキッともげる。面白くて夢中になってしまいました。

孫達はと見渡すと、母親と一緒に模索しながらの子、初めて会ったお兄さんと2人であれこれ話しながらの子、各々、とうもろこしから心離れる事無く楽しんでいる。

他の参加者の大人も子どもも、和気あいあいの雰囲気で収穫を楽しんでいる様でした。生のとうもろこしにかじりつき、嬉しそう。

畑から戻ると、炭火焼のとうもろこし、炊きたての白米、何種類もの漬物、ゆで卵、トマト、よく冷えた飲み物、美味しいご飯と楽しい会話でお腹も心も満腹になりました。

最後は村の三千代さんの畑で、ミニトマトを収穫させて貰いました。トマトが苦手な孫の1人が“食べてみる！”と言って口に入れてました。心もいっぱい、動いているなあ。

春まつりの時、危ないと話に上がっていた場所も、しっかりと柵が張られ、村の人達の絶対安全を感じられ、嬉しかったです。私に見えていてもいなくても、知恵や心を寄せ合っ

ヤマギシの村で実習生を体験中

実習生（別海実顕地）大森利識

年末年始の特講にはじまり、2月の研学を経て、4月から豊里実顕地、7月から別海実顕地で実習生として体験をさせてもらいました。

昨秋に自分の暮らしの場所を変えようと発心してから、様々な場所、との出会いがありました。ヤマギシとのご縁が長かった一年でありました。昨年の今頃の私は、今の私の状態を全く予想できなかったのですから、改めてご縁とは不思議なものだと感じます。当然、今、私がこうしているのは、私の選択があったからだというのもあります。しかし、私中心で世の中は回ってはおらず、思い通りにいかないことは多々あることです。

そんなご縁があったと感じるヤマギシに、私は何に惹かれて来たのでしょうか。そして何を求めて来たのでしょうか。何故、わざわざ不満はない職を退職してまで動いているのでしょうか。人と持ち味を活かし合いながら、どうやっていくと幸せになるかを考え続けるというのが自分の生き方である以上、生き方探しではなく場所探しであることに、ある村人との会話で改めて気付くことがありました。私は「something new・新しい何か」を求めて来たわけではなく、もっと人間の根本的、本質的なものの確認と体現をしたいだけなのです。そしてその根本本質こそが「幸福」であるという思いが、ヤマギシズムと繋がるのはごく自然のことでした。

ヤマギシに来てから、「研鑽」って何だろう。「零位に立つ」とはどういうことだろうという自分の中での一貫テーマに加え、実習では「人と共に、牛と共に」「よく見る」というテーマを出してもらいました。

例えば別海実習での繫ぎ牛舎実習はどうだったでしょうか。酪農は作業的には毎日毎日、同じことをします。そこで、これはこうするんだ、牛がこうしたらああすればよいというふうに、頭の中で固定化してしまって、酪農ルーティンを日々繰り返すだけの、それは何ともつまらない実習生活になっていたことでしょう。

また改めて「研鑽」とは何かと問われれば、「無固定」という言葉が思い浮かびます。それは決して、ああでもないこうでもないという優柔不断でもなければ、心があっちこっちの風見鶏でもありません。過去の経験、体験、実感を無視や否定するものではありません。飽くまでも決めつけからの不幸を避けるための「棚上げ」であると思いました。

私はこれからどこに住み何をするか、この原稿を書いている時点では決めないようにしていますが、世の中のトレンドはこう言っているが本当はどうであるかという視点、持ち味を活かし合い、人と共に幸せになるという研鑽生活が続くことは確かです。



て迎えてくれているのだと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

実は私の目論見は他のところにも有って…。子どもの頃、楽園村や学園で暮らしてきたわが子達に、親になった今、自分の目で村を観て欲しかった事。孫達に、楽園村の様な空気に触れて欲しかった事。まずは一步、踏み出せたかな？

次は「さつまいも収穫」あるといいなあ～。楽しみにしています。最後に、村のお父さんに、いつものコールで送り出して貰いました。

“いってらっしゃーい” “いってきまーす”

熊本9月定例研鑽会に参加して

熊本県 横山哲

熊本では、毎月1回9:00から16:00頃まで研鑽会をやっています。

ここ1年くらい「一体とは」を継続テーマで考えてきましたが、最近2回は夫婦のことで研鑽会をやりました。

なぜ夫婦という単位に注目したか？それは、60代、70代と私たちも高齢化し、立派に「ジジババ」になったのであります。こどもたちも巣立ち、仕事も放し、これから余生何に重きを置いて生きていくのか？夫婦いがみ合って暮らすのか？はたまた一緒に暮らすのであれば、とことん仲良くこれから余生と共に暮らすのか、では、およそその人の人生に意義あるものになるのではないか？それと、若い世代の参加者には、仲良い温かい家庭で育つことが子等に何よりも重要で、全ての物事の基本であり、仕事がうまくいくかどうかでも重要で、ヤマギシズム理念の「全人幸福運動」はこれがなくては成し立たないのではないかと思っています。

これからも、否定無し、信じず疑わず、親愛の情を基盤に続けていきたいです。「何かしら、会の雰囲気そのものが楽しくて、寄りたくなるような場」にしていきたいです。



『仲良し農場創り』石巻編 その5

宮城県 芦刈真人・小川達

石巻桃生牧場は、2019年8月に伐採や草刈りから始まり、今では母豚100頭の飼育をし、月150頭ほど仔豚出荷をしています。

2018年の夏に視察をした時、まるでジャングルの中にある遺跡でした。0から水道、電気のインフラを整えて豚舎の解体、



石巻市長と地域活性化の若者として面談する機会がありました

改装を得て、2022年6月に母豚候補を初導入。その後順次導入し、2023年5月に仔豚の初出荷に至ります。

当初は収入がなくアルバイトで生活費を稼い

でました。今年の5月からまともに売り上げが上がるようになりました。5年間本当にここまでよく漕ぎ着けたなあと思います。

最初は水道が通ってるという話だったはずが通っていないくてなんとか水道を通して、前の建物の持ち主の組合員との話し合いも一筋縄ではいかず何回も話し合いをして、そして政策金融公庫からの融資もコロナの関係で延びたり、ウクライナ戦争の影響で物が値上がりし、当初の計画よりだいぶお金も時間もかかってしまいましたが、なんとかやってこれました。

この5年間を通して沢山挫折をし、沢山学び、成長できたと思います。そして、何より学んだ事は自分達以外の多くの支援者の下で成し得た事だと言う事です。身近な仲間もそうですが、地域の方々からたくさんの協力を頂きました。

先日も、過疎地域で頑張ってる若者と言う事で、石巻市長と面会をする機会がありました。「地域活性化の為に、是非宜しくお願いします、頑張って下さい」と言ってもらいました。まだまだ力足らずな所もありますが、一歩一歩進んでいます。

地域で1番活気があり、楽しくやり甲斐のある農場にしていきたいなと思っています。東北に来る事がありましたら、是非遊びに来て下さい。



今年の5月に仔豚を初出荷しました

「ヤマギシ会 LINE マガジン」登録募集中

ヤマギシ会の企画、特講や研鑽学校の日程、各実顕地開催の企画や行事、各地域で開催の研鑽会日程などを、LINEマガジンでお知らせしています。



希望される方は、QRコードから登録をして下さい。

幸福会ヤマギシ会活動経費への「協力金」お願い

現在、会員のみなさんからの会費徴収は行っていません。けんさん紙の発行や送付、特講のチラシ作成やお知らせ、会の運営費用などは、心ある人の持ち寄り協力金(カンパ)で運用しています。ご協力をお願いします。

「協力金」振込口座：ゆうちょ銀行

口座番号：00860-8-62321

口座名：幸福会ヤマギシ会本部